

科目名 (英)	臨床鍼灸学Ⅱ Diagnostics of Acupuncture and Moxbustion II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限
後期						

【授業の学習内容】

鍼灸臨床における診察は、東洋医学の「四診」に代表されるよう、直接患者さんを「見る」、「触る」、患者さんから「聞く」ことにより情報を得る。これによって得られた情報を、学んだ知識と照らし合わせ、病態把握(病苦の原因の推察)を行い、必要な治療計画を立てるのが「臨床」である。これを可能にするのが、診察の技術と知識を活用する力である。

臨床鍼灸学はⅠとⅡで構成されている。このうち、Ⅱでは病態把握を行う際の根拠となる検査法(徒手検査や身体計測、反射所見など)について学習する。

齊藤

実務実績 鍼灸院、高齢者施設での診察から治療までの業務に従事
医療系専門学校にて教鞭をとる。

資格 はり師、きゅう師

【到達目標】

各検査法が患者に与える心理的、身体的負担に配慮しつつ、病態把握の根拠となりうる正確な検査を実施できる技術を身につける。

＜具体的な目標＞

目標①各検査を実施するにあたり、検査意義や方法、注意事項などについて、患者にとって分かりやすい説明ができる。

目標②各検査法について、教科書に記載されている検査意義や方法、注意事項などが答えられる。

目標③患者に対する必要な配慮をしつつ、負荷をかける方向や力加減、術者の姿勢など正確性を高めるポイントを踏まえた検査が実施できる。

授業計画・内容

1回目	どのような患者に対して実施し、何の判断材料として用いるかが答えられる。
2回目	血圧測定、身体計測:それぞれの検査の手順を理解し、実施できる。
3回目	徒手検査①(上肢、頸部):各徒手検査の陽性所見が出現する機序を理解し、配慮をした上で適切な負荷をかけて実施できる。
4回目	徒手検査②(下肢、体幹):各徒手検査の陽性所見が出現する機序を理解し、配慮をした上で適切な負荷をかけて実施できる。
5回目	血圧測定、身体計測、徒手検査の復習:それぞれの評価ポイントを理解し、実施できる。
6回目	反射検査(深部腱反射、病的反射)、触覚検査:それぞれの検査の手順を理解し、実施できる。
7回目	徒手筋力検査①(上肢):代償運動に注意し、正しい運動(運動面、軸)を理解し、実施できる。
8回目	徒手筋力検査②(下肢):代償運動に注意し、正しい運動(運動面、軸)を理解し、実施できる。
9回目	反射検査、触覚検査、徒手筋力検査の復習:それぞれの評価ポイントを理解し、実施できる。
10回目	弱点克服:苦手な点を教員にチェックを受け、実施できる。
11回目	徒手検査の到達度確認:課題を実施し、6割以上の評価を得られる。
12回目	血圧測定の到達度確認:課題を実施し、6割以上の評価を得られる。
13回目	徒手筋力検査の到達度確認:課題を実施し、6割以上の評価を得られる。
14回目	徒手筋力検査以外の神経系検査の到達度確認:課題を実施し、6割以上の評価を得られる。
15回目	所見の活用方法、定期試験のポイントについて理解できる。
準備学習 時間外学習	いずれの目標についても、必要な「知識」の習得と実践を通じての「慣れ」が必要です。実践については、授業内でも行いますが、回数に限りがあります。各授業終了後の「知識」の復習とあわせ、学生同士でのロールプレイを繰り返すようにしましょう。検査意義にあたる対象疾患に関しては、臨床医学各論Ⅰの予習が必要です。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	検査法の実施、その結果(所見)からの病態の推察には、症状発現の病態(どこがどうなった為に症状が出ているのか)についての理解が重要です。これまでに学んだ解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論などの知識の定着が不十分な学生は、この機会に復習しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:滋慶認定実技審査対応 ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK 滋慶出版

参考書: